

RP-13「八幡平市におけるCCRCの遠隔講義による生涯学習に関する実践と検討」

課題提案者：株式会社アーベイン・ケア・クリエイティブ

研究代表者：社会福祉学部 宮城好郎

研究チーム員：山下直基、最上雄吾（株 アーベイン・ケア・クリエイティブ）、関貴之（八幡平市役所）

<要 旨>

本実践研究では、CCRC事業を推進している岩手県八幡平市にある「オークフィールド八幡平」を対象にして、大学連携型CCRC構想の一環として、ICTを活用した遠隔講義の導入によりオークフィールド八幡平と岩手県立大学を結び生涯教育のサービスを提供するための仕組みづくりを検討するための予備的な考察を行った。具体的には、Skype（動画付き音声通話システム）を利用して、オークフィールド八幡平の入居者が岩手県立大学の遠隔講義を受講できる仕組みを作るための検討を行った。また、より多角的な考察を行うため先行研究によるCCRCの整理に加え、大学との連携を通じたCCRC事業のあり方についても考察を行った。

1 研究の概要（背景・目的等）

岩手県八幡平市の「オークフィールド八幡平」（以下、OFH）では、全国に先駆けてCCRCの形成を目指した「サービス付高齢者向け住宅」を核とした事業を推進している。CCRCとは、（Continuing Care Retirement Community）の略称で、ケアサービス付きの高齢者の共同体（コミュニティ）を意味する。当該事業では入居者に対して大学等と連携した生涯学習サービスを提供することが検討されている。CCRC発祥の地であるアメリカでは大学と同じ市町村に作られたタウン型CCRCが成功を収めているが、日本国内では密接に大学と関連したCCRCの事例はまだ少ない。

OFHは首都圏をはじめとした各地からの移住者、アクティブシニアを主な入居者のターゲットとしており、大学と連携して、入居者と学生、地域を交えたコミュニティを創りたいと考えている。しかし、八幡平市には大学がなく、移動が負担となる入居者（高齢者）に対して生涯学習サービスを提供することが難しいという課題がある。日本版CCRCの実践はまだ全国にも例が少なく、大学連携型CCRCを推進している先事例は極めて少ないのが現状である。

そこで本実践研究では、OFHを対象にして、大学連携型CCRC事業の一環として、ICTを活用した講義（OFHの「サービス付高齢者向け住宅」入居者をターゲットに限定した遠隔講義）の導入によりOFHと岩手県立大学を結び、生涯教育サービスを提供するための仕組みづくりを検討する。

2 研究の内容（方法・経過等）

本実践研究では、まず、アメリカにおけるCCRCについての先行研究の文献調査を行った上で、遠隔講義を実施した。

実践研究の方法は、CCRCコンセプトのサービス付高齢者向け住宅である「OFH」（運営：アーベイン・ケア・クリエイティブ）に居住している高齢者等を対象に

遠隔講義の実験を行った。実験では、現在無料で使用できるビデオチャットの中でも最も普及率の高いSkype（動画付き音声通話システム）を利用した。配信する講義内容は、研究代表者である宮城好郎が担当する岩手県立大学での下記の授業2回分である。

・授業科目名：「社会貢献論」

・実施日時：

①平成28年5月9日（月）：10時30分～12時

②平成28年5月16日（月）：10時30分～12時

また、平成28年7月にOFHと岩手県立大学の連携についてのワークショップ（於岩手県立大学社会福祉学部）を行いCCRC事業の検討と大学との連携について考察を行った。

3 これまで得られた研究の成果

1) 遠隔講義

講義を受講した学生は35名で、OFHで遠隔講義を受講した入居者は6名であり、それぞれから意見を聴取した。

- ・OFHの高齢者からの意見、質問が多く学習に対する意欲が感じられた。
- ・大学の講義室と同じ時間を共有している感覚が良かった。
- ・一方的な講義を聞くだけでなく参加できること、講義を受けているという臨場感が感じられた。
- ・遠隔地で交流できることが楽しかった。
- ・音声聞きづらい事が多かった。
- ・学生の声が聞こえなかった。
- ・画質が悪い時があった。
- ・継続していくには進め方に問題があると感じた。

得られた意見から、まず、OFHの入居者の講義への積極的な参加（質問、意見）姿勢が見られた。本実験では、CCRC（OFH）の入居者はアクティブシニアが多いため、遠隔講義に対する肯定的な意見を多くいただけたのではないかと考える。現地（岩手県立大学）に行かなくても講義に参加できるという利便性や遠隔講義ならではの「楽しさ」だけでなく学習者の主体的・対話的等

学びの場となる可能性があり、「アクティブ・ラーニング」の視点からも効果が期待できる。

一方、主に以下のような課題、改善点も明らかになった。

今回のSkypeを利用した遠隔講義では、OFH側でコンピュータ備え付けのマイク、スピーカーを利用した。しかしながら、備え付けの音声デバイスの性能は高くなく、グループチャットやツールを使用する場合には、集音性の高い会議用マイク・スピーカーや無線式マイク等を使用する必要がある。可能であればアンプ等の音響設備を整えることで、より効果的な遠隔講義を実施できると思われる。映像に関しても、円滑なコミュニケーション、資料提示を行うために高画質かつ広範囲を映せるものであることが望ましい。必用に応じて広角レンズカメラ、サブカメラ等の機器を用意する必要がある。

また、音声および映像を遅滞なく高品質で配信するには安定した高速通信環境が必須となる。光通信以上の通信環境と、可能であれば有線の接続を行うことで通信環境を安定させることが出来ると考えられる。

遠隔講義を円滑に進めるために、実際に講義を行う講師とは別に「ファシリテーター」の存在が不可欠であると感じた。

今回の遠隔講義実験の受講者のようにアクティブな高齢者を対象とする場合は、意見や質問を出してもらう手続きはあまり必要ないが、全体の進行調整が必要である。また、遠隔講義の適切な操作による遠隔講義の最適化作業を行う必要がある。ファシリテーターは、各会場毎に設置する。

今回は単発のイベントであるが、最短でも半年ほどのスケジュール決めて継続的に遠隔講義を実施することで、参加者の習熟を図るとともに目的意識を持って遠隔講義に積極的に参加してもらうことができると考えられる。

CCRC側へのコンピュータ操作およびICTに関する事前学習も必要である。ICT教育により高齢者が遠隔講義に参加するための精神的な障害が少なくなるものと考えられる。実際に、コンピュータ操作に抵抗が少ない欧米ではSkype等のチャットツールを使用した交流は一般的であり、遠隔講義等の導入も日本と比べてスムーズに行うことができると思われる。大学との連携を図っていく上でも、高齢者に対するICTリテラシー教育も遠隔講義と平行して行うべきであると考えられる。

2) CCRCにおける大学連携（マインドマップの作成）

平成28年7月1日、岩手県立大学を会場にワークショップを実施した（ファシリテーター：川村美沙樹）。ワークショップは、CCRCと大学の連携によって可能な生涯学習等について議論することを目的に、OFH入居者、OFH職員、岩手県立大学学生（3名）、八幡平市役所職員、岩手県立大学研究・地域連携室職員参加の下、マインドマップの手法により実施した。マインドマップ

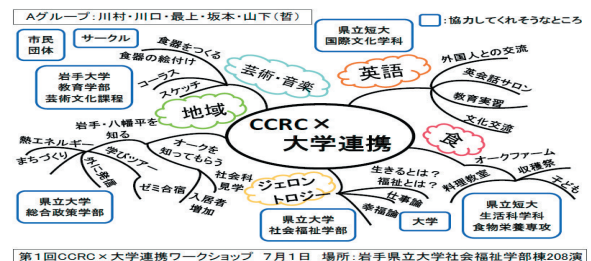
とは、「放射思考」に基づいて考案されたもので、自分の考えを絵で整理する表現方法である。

このワークショップでは、生涯学習の内容に関するキーワードとして、「ジェントロジー」「地域」「音楽・芸術」等のキーワードが示された。特に「ジェントロジー」は、大学の老年学やキャリア教育の講義を連携して行うことで学生にも高齢者にも自分の人生を考える良い機会となるという意見が多く出た。大学の老年学やキャリア教育の講義を市民講座として遠隔講義により提供することで、CCRCの核となる「健康でアクティブな生活の実現」を考える契機となる。OFHから新しいアクティブシニアの生き方を発信していく上でもジェントロジーというキーワードが抽出されたことは示唆的である。

一方、今後、大学連携の生涯学習を推進するにあたり、推進する主体の組織化が課題である。アメリカのCCRCでは、大学がNPO法人を設立し、大学の業務等から切り離し、運営している事例がある。CCRC事業者と大学とで新たな組織を立ち上げ共同運営をする必要性も示された。



図1 岩手県立大学との遠隔講義の様子



第1回CCRC×大学連携ワークショップ 7月1日 場所：岩手県立大学社会福祉学部棟208演

図2 マインドマップの成果物（整理：川村美沙樹）

4 今後の具体的な展開

OFHの入居者を対象とした遠隔講義の実施を通して、検討すべき点も明らかになっているものが様々あるため、今後さらに継続的に実践と検討を重ねていきたい。また、大学連携型のCCRCのありかたについても事業者側と一緒に検討していく予定である。

5 その他

本実践研究について、日本版CCRC研究の第一人者である三菱総合研究所の松田智生氏の著書『日本版CCRCがわかる本』法研、2017、のなかで一部ご紹介いただいた。

なお、本報告書の作成にあたっては、研究関与者の瀧澤寛之（株 クリアフィックス）氏の報告書や、川村美沙樹（岩手県立大学社会福祉学部生）氏の平成28年度卒業課題研究を参考・引用している。また、八幡平市役所の関貴之氏からもご協力をいただきましたことに御礼申し上げます。